

メルボルン・イマージョン

メルボルン MELBOURNE

欧米での事業展開に向けたベースキャンプとして最適の地

オーストラリアにおいて、最も多くの医療・ヘルスケアイノベーション、スタートアップが創出される都市。ロイヤルメルボルン病院を中心に多くの医療機関と大学・研究機関、企業、起業家が連携する素地が確立されている。

オーストラリアの市場が小さいため、ほぼ全てのスタートアップが、米国・ヨーロッパを目指すことから、欧米向けの事業化を支える機能が充実している。

例えば、オーストラリア内で臨床試験を行う際には、政府から投資額の約40%をキャッシュバックする施策や、FDA向けの治験プロトコルの策定から実行、あるいは製品開発におけるデザイン等をサポートするサービスプロバイダーなど、医療・ヘルスケアイノベーションのグローバルレベルでの事業化を支えるエコシステムが機能している。

また、欧米で事業展開を経験した起業家人材が、彼らの経験値、ノウハウ、人的ネットワークを後進の起業家とも共有し、投資活動も行うようなコミュニティ内での循環がうまく形成されている。



現地大学・医療機関との密接な連携にもとづくイマージョンプログラムを提供



メルボルン大学は、医学・バイオメディカル・デジタルヘルス・公衆衛生などの分野で、研究から産業化まで幅広い取り組みを行い、医療・ヘルスケアイノベーションを牽引する世界でもトップクラスの大学です。

RMIT大学は、デジタルヘルス、バイオメディカル工学、医療デザインの分野で強みを持ち、産業界と連携しながら実践的な医療イノベーションを推進する大学です。特にAI診断、ウェアラブル医療機器、3Dプリント、スマート病院技術といった分野でオーストラリアをリードしています。



ロイヤルメルボルン病院は、メルボルン大学と提携関係にあるオーストラリア最大の医療機関。豪州で初めてとなる手術ロボットの導入やAIを取り入れた医療など、イノベーションの実装に寄与している



セントビンセント病院は、オーストラリア有数の医療機関で、公立・私立両方の側面をもつ。医療イノベーションの発展に積極的に関与し、先端医療の実践の場となっている。

海外イメージョンプログラム行程案

「グローバルを見据えた事業化」を具体的にかたちづくり、実践可能な戦略とネットワークをつくる

本イメージョンを通じ、グローバルでの事業展開、特に欧米での展開を見据えた事業戦略を実践するためのベースキャンプ、パイロットマーケットとして最適なオーストラリアのエコシステムと有機的につながり、日本では獲得しにくいリソースやサービスへのアクセスを確立する。

	Day1	Day2	Day3	Day4
メルボルンエコシステム・イメージョンプログラム	ビクトリア州政府 医療イノベーションの推進に関する様々なインセンティブ、施設等の紹介	大手企業 グローバルで事業展開する大手企業を訪問し、外部のイノベーションの活用についての考え方を学ぶ	ロイヤルメルボルン大学 世界でもトップクラスの大学。医療イノベーションの源泉となっており、数多くのユニコーンを輩出。大学発スタートアップとの合同セッション	ロイヤルメルボルン工科大学 エンジニアリングを中心とした豪州の名門工科大学。主に医療機器に関する多くのイノベーションが生まれている。同大起業家等とのラウンドテーブル
	メルボルン大学検証センター 主にデジタル医療の分野における医療現場との整合性をはかりながら、ユーザビリティの検証を支援するセンター	ロイヤルメルボルン病院 医療機関として、どのように医療イノベーションの促進に関与しているかを学ぶ	Nucleus Network オーストラリア国内、米国に拠点をもつCRO。メルボルン・アルフレッド病院の臨床試験環境について、世界レベルの質とスピードを備えている	セントビンセント病院 ロイヤルメルボルン大学と提携する病院のひとつで、医療イノベーションを積極的に取り入れ、スタートアップとの連携も多い。特にAI、ロボティクス、遠隔医療分野に注力
	スタートアップ支援施設・機関 コワーキングや共用ラボ施設など支援施設や機関を訪問し支援メニューについて学ぶ	設計・開発企業 欧米大手メーカーの製品開発にも携わる設計・開発企業を訪問。ユーザー志向の医療機器デザインなどについて学ぶ		

※上記のほか、現地エコシステムとの交流会や他プログラムへの合流などを企画

※参加者の分野や事業ステージに応じてプログラムを最適化

シャドーイング Executive Shadowing

本プログラムを経て、実際にグローバル展開を含む事業化に挑む研究者／起業家に対し、1日/2週間、メドテックアクチュエーターの幹部やメンターがスタートアップ／プロジェクトに経営幹部として参画するプログラム。

創業期の事業戦略を策定する段階が、数多くのスタートアップにとって非常に高いハードルとなっている。その重要なタイミングにおいて、グローバルでの事業化について経験のある「Shadow Executives」が定期的に戦略、指針の立案、策定にハンズオンで携わるオリジナルのプログラム。CEO、CTO、CMOなどスタートアップ／プロジェクトのニーズに合わせ、適切な人材(シリアルアントレプレナー、元大手企業等での事業開発経験者、医療従事者等)をアサインする。



シャドウエグゼクティブ

医療KOL、大手企業の事業開発責任経験者、シリアルアントレプレナーなど、各社の事業内容や課題に応じた適切な人材がコミット

Chief Medical Officer



Prof Peter Choong
Orthopaedic Surgeon



Prof Megan Robertson
Neonatologist



Dr Cameron Keating
Reconstructive Surgeon



Prof Nancy Baxter
Gastroenterologist



Dr Andrew Chou
Paediatrics

Chief Executive Officer



Prof Nick Opie
Serial Entrepreneur



Ajeesh Ashraf
Global Commercialisation



Elisha Mullins
Global Commercialisation



Margaret Wright
Global Commercialisation



Prof Lauren Ayton
Serial Entrepreneur

Chief Operations Officer



Matt Godden
Global Commercialisation



Elane Zelcer
Biotech Expert



Paul Carboon
MedTech Expert



Penelope Lane
Global Commercialisation



Pete Saunders
Digital Health Expert

ボーノルームシミュレーター Boardroom Simulator

本プログラムを経て、実際にグローバル展開を含む事業化に挑む研究者／起業家に対し、架空のボードメンバーを立ち上げ、経営に関する進捗、資金調達の戦略など、起業・成長した際に必要となるボードミーティングの準備から実行をシミュレートする。

参加するボードメンバーは、MTACのメンターネットワークの中から選定し、出来る限り幅広い観点からのインプットを得られるように組織する。



NEXT ACTION



本プログラムを経て、実際にグローバル展開を含む事業化に挑む研究者／起業家に対しては、MTACの他のプログラムへの参加などを含め、継続的に伴走支援を行う。継続支援においては、MTACのもつ100以上のパートナー、150名以上のメンターへのアクセスも含め京都大学との協議によりカスタムメイドすることも可能。





MEDTECH  ACTUATOR

Chief Executive Officer
Prof. Buzz Palmer